

城郭朝日岳 朝日沢～桧沢

石川 貴大

■山行年月日:平成30年9月18日～19日

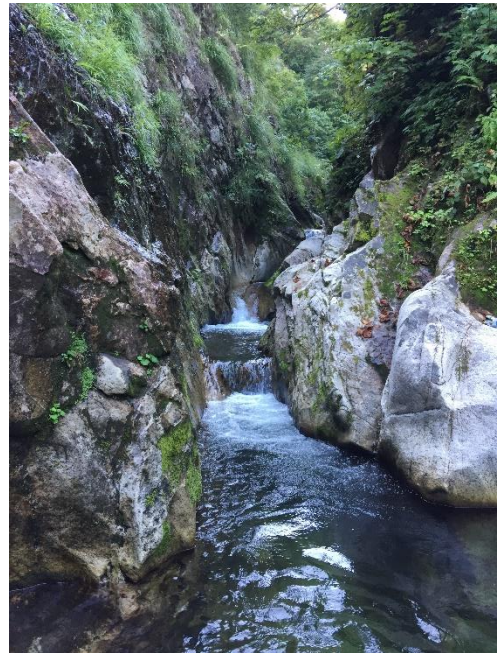
■メンバー:石川 貴大

■コースタイム:18日 駐車場(9:30)～倉谷川入溪(9:45)～左の沢分岐(9:50)～砂防ダム(10:00)～胡桃沢(10:55)～東沢分岐(11:45)～小倉沢(12:00)～桧沢分岐(13:10)～テンバ(14:15)

19日 テンバ(8:45)～朝日沢分岐(9:40)～朝日沢実線終点(10:35)～城郭朝日岳頂上(13:15)～桧沢分岐(16:20)～駐車場(18:40)

前回から行きたいと思っていた倉谷川の朝日沢から城郭朝日岳へ。今回は初めての1人で1泊の沢登り。1人だけだからと寝過ごしてしまい、また大事な竿を忘れて引き返したりと結局9時の入溪となってしまった。倉谷川沿いには林道が入っているが通れないため、黒谷林道との分岐のすぐの車寄せに停める。いそいそと準備をしていると背後からガサゴソと音が聞こえる。振り返ると10匹ほどのサルの群れが、何度か近くで見るがやっぱりおっかない。林道わきに生えるトチノキでも食べに来たのかな。準備も終わり左右に草の生い茂る林道を進み、溪流釣りの人の踏み跡を見つけそこから入溪する。1人でしかも泊りとなるといつもよりも現地確認は間違えられない。地図とGPSを駆使しながら先を進んだが、おおよそは地図読みが合っているようで一安心。初めの左からの沢を越えたところに

1つ目の砂防ダム、胡桃沢を越えたところに2つ目砂防ダムどちらも巻き道がついていたためそれをありがたく使わせてもらう。砂防ダムを越えてしばらくは河川敷を歩くような平らなところが続く。泊りで来たのにこんな感じではつまらないと思いながら進むと徐々に険しくなってくる。水量が多く、序盤は濡れたくないのでもまく越えられそうなところを探し、へつりながら行くが一度失敗して濡れてしまえばもうどうでもよい。ずいぶんと肌寒くなったが、気にせずぎぶぎぶと歩を進める。全体を通してみても、深くて胸まで泳ぐようなことはなかった。



廊下状に沢が続く

普段は日帰りで竿を出す機会が無く、魚が泳いでいることなど気にも留めないが、今回は泊り、しかも1人のために自分で釣るしかない。泳ぐイワナに目が行く。桧沢分岐あたりでイワナを1匹釣り、野営の準備をし、1人心細い一夜を過ごした。

翌日は遅い朝食を済まし、9時前にテンバを出発。この時間に出発したことを後に後悔することとなる。桧沢から先は今までより一層に沢がくっと狭くなり、2mほどの登りが一定間隔ですてくる。途中、幅5mを越えるような雪塊があった。この時期にこれだけ残っているのだから万年雪だろうか。やっぱり沢登りはこうでなくちゃ。朝日沢を忠実に最後まで詰めずに途中から頂上に向かう沢に逃げる頂上を経て桧沢の枝沢に下りるまでの1時間弱の藪漕ぎに疲れ果ててしまった。桧沢に合流して進むと12mほどの滝にぶつかり、今回



朝日沢の残雪

初めて懸垂のためにロープを出す。桧沢の分岐に着いた時点で16時をまわっていたので、時間を気にしながら下山を急ぐ。願いは届かず胡桃沢を越えたあたりで日が暮れてしまった。後は何もないのでヘッドランプの明かりを頼りに下山。課題が多く見つかった初めてのソロ1泊の沢登りであった。

